

市長のパフォーマンスに議会多数がシラケ

宇野千代生家取得は凍結

岩国市は宇野千代生家を貴重文化遺産とし、新しい観光資源として整備し、平日も開館、新しい観光客を掘り起こす目的で用地取得費を約六〇〇万円と維持管理費を計上。

生家相続人から用地売却と生家の寄贈要望が出していましたが、管理運営を予定している団体が未だにNPO法人の認証を受けしていないことや他所の例は多数で決定しました。

「錦帯橋周辺文化観光振興基金条例」否決

錦帯橋架け替えの効果で渡橋客が増えたのを機会に、岩国、山、川西地区を含めて周辺の整備を図り、文化、史跡の整備や保存、錦帯橋資料館など観光施設の整備で新しい観光客誘致を目的として提案されました。

周辺整備は当然必要ですが、今の「錦帯橋管理特別会計」を

交通局長の

民間人公募に批判

現交通局長の任期が三月末で満了することで、市長は唐突に局長を民間から公募すると発表。任期がわずか九ヶ月しかないのに、成果の見通しがたつかないのに、疑問が出されています。

赤字解消に努力してきた職員

藤生沖の「産廃処分場」

同意得られず

ついに計画断念

東部環境保全センター（理事長・井原勝介市長）は三月二十四日、理事会を開催し、「地元自治会の同意を得ることは難しい」と計画を断念しました。

藤生沖に約21haを埋立、産業廃棄物最終処分場を計画。

「国病沖の産業廃棄物処分場を考える会」は、関係住民三四八八名の反対署名を岩国市に提出、「産廃処分場」計画の白紙撤回を求めピラ



議会ほれほれ

渡市議が議場で陳謝

市議会を膨張した女性に対し、清風クラブ所属の渡市議が自分テレビタックルでも裸足を投げ出のホームページで「防衛庁の患しているところを全国放送され、者か」と書き込み、画かれた当事者から市議会議員宛に「善良な誰でも失敗はある。非を素直に認める必要を指摘、渡議員あらためか、恐ろしくて傍聴にもいけなくて陳謝しました。」と抗議が寄せられました。

この問題で議会終了後全員協議し渡されました。議長から渡議員に厳重注意が申議会が開かれ、渡議員へ厳しい批判が集中しました。

岩国民報

発行所
日本共産党東部地区
岩国市委員会
岩国市山手町4-3
-5
22-2245
4月号

市議会議員
大西 明子
山田 泰之
藤本 ひろし

しん旗

お読みください
日刊 月 2900円
日曜版 月 800円

三月議会

平成十七年度の予算

決まる

三月議会は二月二十八日から三月二十三まで開催されました。平成十七年度の岩国市の一般会計予算は四〇五億五千万円、市場や国民健康保険など十二の特別会計は三六八億三三三〇万円となります。

平成十七年度の財政見通しは算の構成比率は7.5%と過去最低約一〇億円の財源不足が見込まれます。お年寄りや子供達にされる厳しい状況にあります。寄せが来ています。

岩国市の財政は市税収入の減少、又、議案四七件と議員提出議案二件が審議されました。岩国の三位一体改革の影響で普通交市大陽の家条例はこれまで措置付税が減少し、歳入が減る一制度で終日療育をしていたのを方、児童手当や医療費の伸び等 支援費制度に移行し、児童デイで福祉関係費が増加しています。サービス事業を行なうものです。制度移行のためおきている

当面、投資的経費や経常的経費を削減し、不足分は財政調整基金八億円、退職手当金三億円を取りくづして対応します。

そのため、七〇歳以上無料であった老人優待バスが十月から一〇〇円に、子ども達の教育予

市議団は四七議案中、一般会計など八議案に反対、三九議案に賛成しました。



一般会計予算に理由を述べて反対

政府が05年から06年にかけて七兆円もの国民負担を押し進めようとする時に、地方自治体が国の悪性から市民のいのちとくらしを守る防波堤の役割を果たさなければなりません。

第一は、基地政策で、市長の「国ごと」防上居力する立場にある」との基 第三は、法律の範囲を超えた本姿勢が基地の拡大強化、ひいてはNLPを呼び込む結果になっていると指摘。

第二は、合併推進によって、山業務を民間に委託することで、口県下一番に広い行政面積を持つ教育委員会の直接の管理監督が、人口減が20年余りで2万人も減ることが予想される状況で財政なくなくなり、安全が保障され、五番目に市営バスの老人優待が大幅なサービス低下をもたらす精度の改悪です。70歳以上の高の必要性を述べました。

外来生物防除を全会一致決議

―アルゼンチンアリやクロゴケグモ―

「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」が六月に施行。この契機に全会派が一致して議員提出議案として採択されました。



写真提供 日本蟻類研究会

アルゼンチンアリは二〇〇二年夏ごろ住民からの苦情が寄せられはじめ、黒磯地区、元町周辺、岩国駅前等六地区で見。特に黒磯地区では大量に繁殖、家の中や農作物にも被害が出ています。黒磯地区の住民が「被害者の会」を結成し、一八一〇名の署名をそろえて被害対策を市長に陳情しました。市議会としても、「市民が安心して暮らせるよう国及び県との連携を密にし、アルゼンチンアリ、クロゴケグモの防除対策を早期に実施することを強く求める。」よう決議をしました。